

平成 30 年度  
健康科学大学  
公募推薦入試

平成 29 年 11 月 11 日

## 平成 30 年度健康科学大学入学試験

### 小論文試験問題（公募推薦）

次の文章を読み、あとの問いについて別紙解答用紙に記述しなさい。

ヒトは社会性生物です。絆を大切にし、他者を助け、ときに助けられ、集団生活を営んでいます。互いに便宜や利益を与え合う「互恵」は社会性の①コンカンです。

集団を作る動物はヒトだけではありません。たとえば、ハチやアリの社会構造は驚くほど精巧です。分業制が完璧に行きわたり、各自が役割に徹し、ヒトの社会をはるかに凌駕する効率性を誇っています。そんな立派な自然界の諸先輩方を差しおいて、なぜヒトは自らをわざわざ「社会性生物」と自称するのでしょうか。（中略）

ヒト特有の文化継承という②カンシュウを、究極的に結晶化した形態が「学校教育」です。教育というシステムは、教師が（赤の他人である）子どもに③チエを伝授することで、迅速かつ画一的に文化を伝承することを可能にします。

一方、教育現場でなくとも、私たちは自然と学び成長してゆきます。この場合、学校とは異なり「教師」はいません。実は、この A. 「教師なし学習」の方が、ある意味で、人間らしい営みが反映されてきます。

では、教師不在の状況では、私たちは誰を頼りに情報を得るのでしょうか。フローニンゲン大学のモールマン博士らが興味深い論文を先月に発表しています<sup>86</sup>。

博士らは、二つの選択肢のうちどちらのほうが獲得金が多いかを、複数の人が集まって判断し、各人が徐々に学習してゆくという実験をデザインしました。この実験を通じて、「ヒトが何を参考にしながら意志決定するか」を調べたのです。その結果、大きく三つの型が存在することがわかりました。

一つ目は独学タイプです。他人の意見を参考にせずに、自分で試行錯誤しながら最適解を探し当てるというタイプです。二つ目は成功している人を④マネするというタイプです。三つ目は「皆がそうするから私も」と、周囲の平均的な意見に従うというタイプです。

この三つの作戦のどれが有利に働くかは、状況によって異なります。つまり、どのタイプがベストかということはありません。逆に言えば、状況に応じて⑤ジュウナンに戦略を変える必要があるということです。

（参考文献 86 は省略）

（池谷 裕二 著「できない脳ほど自信過剰 パテカトルの万能薬、朝日新聞出版」2017年）

問1. 本文中の下線部①～⑤のカタカナを漢字にしてください。

① コンカン ( )

② カンシュウ ( )

③ チェ ( )

④ マネ ( )

⑤ ジュウナン ( )

問2. 下線部 A の「教師なし学習」の方が、ある意味で、人間らしい営みが反映されてきますを表している箇所を10字以上15字以内で抜き出してください。

問3. なぜヒトは「社会」を作るのか、あなたの考えを500字以内で述べなさい。





平成 30 年度健康科学大学入学試験

小論文解答用紙（公募推薦）

問 1. 本文中の下線部①～⑤のカタカナを漢字にしてください。 1 問 5 点×5 問=25 点

①コンカン ( 根幹 )

②カンシュウ ( 慣習 )

③チエ ( 知恵 )

④マネ ( 真似 )

⑤ジュウナン ( 柔軟 )

問 2. 下線部 A の「教師なし学習」の方が、ある意味で、人間らしい営みが反映されてきますを表している箇所を 10 字以上 15 字以内で抜き出してください。

15 点

自	然	と	学	び	成	長	し	て	ゆ	き	ま	す		
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

問3. なぜヒトは「社会」を作るのか、あなたの考えを500字以内で述べなさい。

60点

**○文字数 10点**

400字～500字 10点、 300～399字 5点、 100～299字 3点、 99字以下 0点

**○正しい語句の使用 10点**

誤字・脱字 1個につき1点減点（同じ文字については1回のみ減点）

最高10点まで減点できる

**○文章の構成・表現力 20点**

段落分け、起承転結、句読点などが正しく使われているか、ひらがなばかりの文章になっていないか、に着目する。

20点、15点、10点、5点、0点の5段階評価

**○論旨の展開 20点**

一貫性、独創性、経験、一般論（知識）の4つの観点から評価

文中の文章を多用している場合は減点対象。

20点、15点、10点、5点、0点の5段階評価

例)・文化の継承（本文を参考に記述しても良い）

- ・生きるため（ヒト単体は非力であるが力を合わせるにより、生存競争に勝つことができる）
- ・作業効率を良くする（複数人で作業することにより、労力を少なくする）
- ・一人では達成できないことが、集団であれば達成できる（物づくりなど）